



グローバルスタンダードという市場の選択

令和7年7月14日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

日本の半導体、PC、携帯電話、テレビなどが衰退した理由は、グローバル市場の需要を失ったからである。これは国内の消費者需要でないことは理解すべきである。

これらはグローバル経済の統一性が、企業への判断を与えるものであることを理解しなくてはならない。

これらは個別市場における消費者の志向は存在し、それらがグローバルスタンダードにおいて統一されるものであることがこれらの要因であると考えられる。

これらは国内市場の閉鎖性が、グローバル市場と一線を画すことがそれら国内基準という企業の現実を与え、既存産業の衰退が与えられるものと考えられる。

これらは、グローバル基準という製品構築の欠如が、上記現実を生んだものであると判断できる。

これらは原因の分析における新しい視点であり、個人的な判断において正しい理解であると考えられるものである。

これら国内基準という現実の不採算性や国内基準における製品開発を有するものであり、それらが合理主義や機能性の追求というグローバル市場における現実に対して自己の希薄さを与えることがこれら現実における原因であると判断できるものである。

これらは日本企業に対する警鐘であり、新たな未来という現実への正しい理解であると考えられる。

経済のグローバリゼーションは、競争という原則において世界のすべての地域における企業がその自己を行うものであり、より優れた現実が唯一受け入れられるのである。

これらは企業の有する可能性と他方における危機なのであり、もろ刃の剣は、唯一企業が自己経営の健全性の実現を必題として求められるものである。